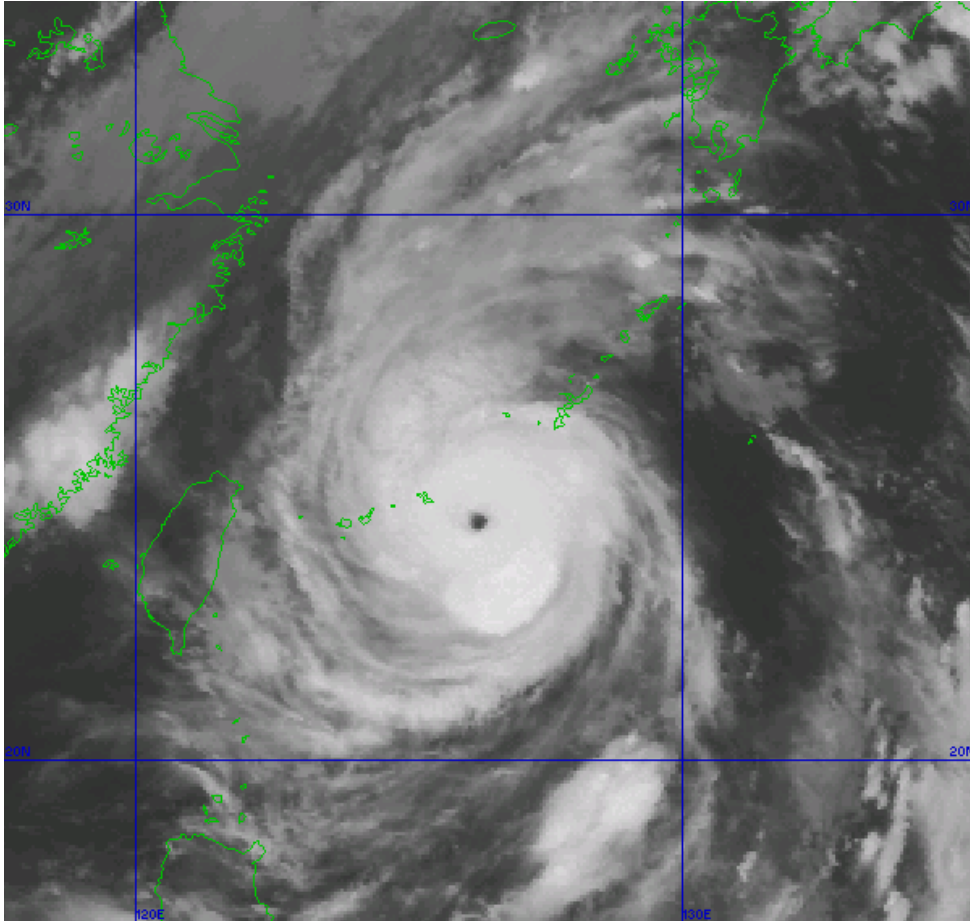


気象衛星画像

—今月のトピックス—



2003年9月10日21時の赤外画像

「猛烈な台風」に発達した台風第14号

台風は南方洋上で発生・発達するが海洋上は気象観測点が少なく、台風の監視には気象衛星による観測が不可欠である。当センターでは雲画像から台風を中心位置や移動、強度の解析を行い、その情報を国内外の気象機関へ通報している。写真は台風第14号が最も発達し、台風の強さの階級分けで最も強い「猛烈な台風」となったときの赤外画像である。眼が小さく明瞭で眼を取り巻く厚い雲域も円形にまとまり、強い台風の特徴を示している。

台風第14号が通過した宮古島では、11日03時12分に最大瞬間風速北の風74.1m/s（沖縄県内で歴代4位、全国で歴代7位）、11日04時12分に最低気圧912.0hPa（沖縄県内で歴代2位、全国で歴代4位）を観測した。「猛烈な台風」の通過で宮古島地方は、死者・負傷者が出たほか、建造物の倒壊、浸水など甚大な被害を受けた。

（気象衛星センター）